

# 三里塚は軍事空港だ！

## 日刊 勤労千葉

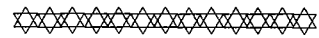
1988.3.17  
No. 2779

国鉄千葉動力車労働組合

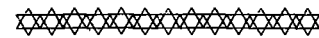
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

侵略戦争に向け二期を急ぐ日帝、  
三・二七の大結集で二期を阻止せよ

### 3.27



今日、反動竹下政権の下で、ますますい勢いですすめられているのが戦争へ向けた攻撃である。昨年十月十九日のブラックマンデーに示されたとおり、世界は大不況に入ることには避けられない。そうした情勢を受けて「先進国」といわれる帝国主義者どもは、競い合うように戦争へ向けた準備を人民の反対をおしきって、あるいは暴力的に人民のたたかいを圧殺して強行しているのだ。日本もその例外ではない。労働者人民の生活を破壊し、「侵略の銃」を持たせようとする攻撃に怒りをこめて反撃に起とう！そしてまた、三〇四月闘争の突破口こそ三・二七三里塚集会である。



有事立法制定策動、  
空母導入を許すな！

今年になってから、防衛庁の動きがより活発化している。一月十九日、日米防衛首脳会談の席上、防衛庁長官・瓦は、米国防長官・カールツチに「日本有事の際の米軍来援研究」を申し出、合意をした。

この研究は、「日本が武力侵攻をうけた際、米軍の来援をどう円滑に行うか、そのための重装備の兵員の大量輸送手段や、装備の事前集積をどう確保するかについて日米で共同研究しよう」というものである。また、それと一体のものとして「戦時における受け入れ国の支援協定」つまり、日本が米軍を支援する協定がつくられている。有事立法そのものだ。

さらに、三月十一日の国会では、同じく瓦が「空母の導入」を明らかにし、自衛隊を侵略軍隊へと今ひとつ深めようとしている。

反戦平和のたたかいの圧殺を許すな！

同時に、「戦争へ向けた国内の体制づくり」が急ピッチに進められようとしていることに危機感をもつて対決しなければならぬ。この点について日本は、各国帝国主義からくらべ、決定的におかれている。自衛隊も軍隊として正式には認められていない。徴兵制度もない。だからこそ、日本人民の「戦争は二度とゴメンだ」という意識を根本から変えなくてはならない、ということだ。

国家機密法（スパイ防止法）、臨教審、天皇制のおしつけ、成田二期の強行など、さまざまな形で人民のたたかいをがんにがらめにし、反対する者は「過激派」キャンペーンをはり、機動隊の暴力で排除する。これが現実だ。

戦争の先兵、革マル、鉄道労連解体！

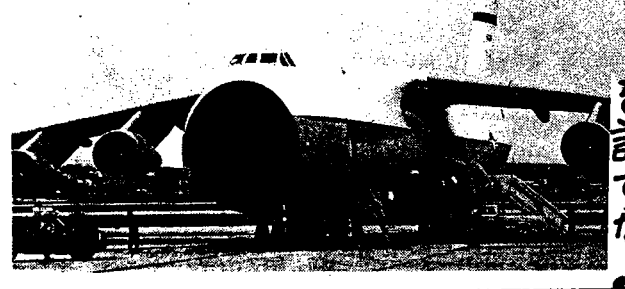
昨年発足した全民労連こそ現代版産業報国会そのものだ。「自衛隊を認め、安保も認め、軍需産業もかまわない。自民党を支持しよう」という代物である。そしてまた、全民労連の突撃隊こそ、革マル・鉄道労連である。松崎は「大東亜共栄圏は必要」「賃上げはゼロでいい」「不必要なものを排除するのは資本の論理、分割・民営化反対とやうやうは首をきれ」と、自民党でさえ言いたくても言えないことを声高に叫んでいる。これこそ戦争の先兵である。

労働者こそ三里塚に集まるべき

三里塚闘争は、「軍事空港建設を進める国家こそ死すべき」というたたかいである。労働運動にもそのたたかいは通じているのだ。「失業・生活破壊、そして戦争をもたらす資本主義こそ倒れるべき」なのである。侵略戦争の道をキツパリと拒否し、労働連帯の旗を高々と掲げて三・二七へ！三・二七集会こそ、「4・1一周年」を弾劾し、八八春闘勝利に向けたたたかいの出発点だ！

有事来援のための軍用輸送機C5A4+ラジ

は三里塚の4000M滑走路が必要だ。



24時間軍事空港化を許すな！

## 3.27 三里塚へ！